

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価					
かしこく	○課題や疑問をもち、よく考えて解決する子 ○状況を判断し、正しい行動をする子 ○話をよく聞き、自分の考えを正しく伝える子	コロナ禍が以前に比べ落ち着きを見せたことから、中長期的目標に沿った教育課程を推進することができた。まず、「かしこく」に関わって上小視聴覚教育研究協議会という場をいただいたことでChromebookの利活用に焦点を当てた授業改善が進んだ。また、体育の授業をユニバーサルデザイン化の視点から考え、どの子ども活躍できる場の設定について考えることができた。次に、「やさしく」に関わっては、プライド5や「さん・くん」呼びなどが定着し、様々な場面で児童の主体的な表現が見られるようになった。最後に、「たくましく」に関わっては、LongLunch Timeという特別な時間を設け児童が主体的に体を動かしたり、友だちや先生とコミュニケーションを図ったりすることができた。					
やさしく	○物を大切に使い、生き物の命を大切にする子 ○感謝の気持ちを素直に伝える子 ○自分との違いを認め、誰とでも仲よくする子						
たくましく	○体を動かしたり運動したりすることを楽しむ子 ○決めたことをあきらめないでやりとおす子 ○すききらいなく食べ、健康な体をつくる子						
今年度の重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
①	①かかわり合いのある「主体的・対話的」な授業の実施（学力向上）	授業のUD化を軸とした授業改善に積極的に取り組み主体性を高めることができた。	○				対話が生まれるような場の設定の在り方について具体的な実践をもとに研究を深めていく。
②	②互いの「良さ」をわかり合える学級・学年づくり（生命尊重）	プライド5が児童に浸透してきた。「ありがとう」を大事にする校風ができています。		○			職員の押し付けではなく、児童会等、子どもからの声を生かしながら定着させていきたい。
③	③目当てを持って運動や活動に取り組む集団づくり（健康・体力向上）	LongLunchTimeという時間が位置付き、遊びを通して体を動かすことの楽しさを味わえる児童が増えた。		○			授業では「めあてを持ち、振り返る、次時につなげる」スパイラルな学びを意識して取り組んでいく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程	教育課程	① 各教科における表現活動の充実	各教科・総合的な学習の時間の学習場面で、自分の考えを表したり、他者の考えを受け止めたりして自分の考えを深めることができたか。	裏山を生かした生活科や総合的な学習の推進、ヤギやウサギの飼育、校外に出ての体験学習など、児童が主体となって学べることができた。	○				教室での学びと校外での学びとメリハリをつけた授業を行い、場に適した力をつけていく。土地柄、自然から学ぶ、塩田の文化財から学ぶという視点を大事にしたい。
		② 道徳教育・人権教育の充実	自分の考えをもち、自分とは異なった考えを持つ相手の立場にたった言動ができるようになったか。	日々の人権教育と週1時間の道徳の時間の両輪を大切に、取り組むことができた。自分を振り返り、相手の気持ちを考えて行動することができる子が増えた。		○			多様な仲間からの学びができる場を今後位置づけていく。異年齢での交流や異校種間での交流も行いたい。
		③ 特別活動の充実	目当てをもって行動するとともに、自分の行動を振り返り、次の行動へのめあてをもつことができていくか。	めあてを明確にすることや、学びの手順をはっきりさせたりすることで見通しをもって行動する姿につながった。自分で考えて行動できる子が増えてきた。		○			授業の基本である「ねらい・めりはり・みとどけ」に立ち返ること、振り返りを次の時間につなげられるような実践の積み重ねを行う。
	学習指導	④ 読む活動の充実	朝読書、読み聞かせ、図書館の時間などの読書活動を教師の積極的なかかわりによって充実させているか。	朝読書を低学年は毎日、高学年は週に2日位置付けて取り組んできたことで、本を読む環境づくりはできている。しかし、読書活動の啓発については担任次第といった面も見られ、課題が残る。		○			司書教諭を中心とした全校で足並みをそろえた読書活動を展開していく。図書館教育にかかわる職員研修を行いたい。
		⑤ 授業の充実	考える活動、表現する活動を意識した授業に取り組み、主体的・対話的な学習が活発に展開されているか。	コロナ禍の影響から一斉授業形態の授業が主になっている。教え込む授業が多く、主体的・対話的な学びにはなりにくい。		○			主体的・対話的な学習を行う手立てとしてペア学習、グループ学習を授業の中に意図的に位置付けていく。
		⑥ 家庭学習の充実	基礎の定着及び学習への意欲を高める家庭学習が位置づけられているか。	朝学習の時間や宿題などで、基礎の定着を図ることができた。家庭学習への取り組みは、家庭環境により、取り組み方に差が出た。		○			「家庭学習のあり方マニュアル」を見直すこととChromebookを家庭学習に使えるように検討していく。
生徒指導	⑦ 基本的生活習慣の充実	自分からするあいさつ、「～くん、～さん」の友の呼び方、靴のかかとそろえ、時間のけじめなどの基本的習慣が日常的に身につくような指導がされていたか。	教職員の意識改革が難しい。できる先生とできない先生の差ができていく。どうして呼び捨てはいけないのか、どうして時間を守る必要があるのか、根本的な部分の啓発が必要。			○		外部講師を招き、職員研修を行い、職員の意識改革を行っていくと同時に啓発もしていく。	
	⑧ 自他を大切にする気持ちの醸成	学校生活全般で相手を意識させ、互いの気持ちを考えたり、相手に寄り添った行動がとれたりする場面を日常的に取り入れることができたか。	課題が生まれたときにタイムリーに指導したり、みんなで話し合ったりする場面を設けることはできた。しかし、日常的に取り入れることは困難であった。		○			相手意識を高めるために、必要感のある活動を設定していく。そうした活動を積み重ねることで、自分がどうしたらいいのか考えさせていく。	
	⑨ 地域に根ざした学習の充実	地域の自然・人材・文化財から学ぶ学習を仕組み、豊かな体験を通して人や物との関わりを学ぶ学習をすすめることができたか。	コロナが落ち着き始めたので、外部講師を中心に、地域の人材や文化財から学ぶ機会を設けることができた。今後、児童の足で出かけ、学ぶ機会を設けたい。		○			外部講師を招き、学ぶ機会を持つことができたので、地域に出かけ、地域の文化財から学ぶ機会を設けていく。	
学校運営	⑩ 情報の発信と連携	学校公開、学校・学年・学級便りなどを通して児童の様子や学校の願いを伝え、保護者・地域との連携に努めているか。	学校の情報発信に対する評価が高い。特に、ホームページに対する反響が多いので、今後も継続していく。学校公開もコロナ禍を最大限配慮して実施することができた。	○				ホームページへの情報掲載は今年度同様に行っていく。また、授業参観も段階を踏んで、多くの保護者が参加できるようにする。	
	⑪ 授業の改善	明確な自己課題を持ち、その解決のために授業公開や各種研修に積極的に関わり自己研修に努めているか。	重点研究や、職員会での授業の一工夫の発表を通して職員同士学びあう機会がもてた。学力向上委員会が中心となった授業改善も効果があった。	○				校内研修に力を入れ、先輩から学んだり、専門的な知識を持つ先生方から学ぶ機会を職員会の時間を使って持つ。	